

令和6年産主食用米の生産の目安について

1 要旨・目的

本県の令和6年産の主食用米の「生産の目安」を、広島県農業再生協議会が設定したので報告する。

2 現状・背景

平成30年産から都道府県別の主食用米の生産数量目標の配分が廃止され、広島県農業再生協議会では、需要に応じた主食用米の生産を目指すため、県域で生産すべき量を「生産の目安」として設定し、公表している。

3 概要

(1) 全国の令和6年産主食用米の生産量の見通し（令和5年10月19日 国公表）

国においては、需給均衡が図られる主食用米の生産量の見通し（生産数量目標に代わる指標）を669万トンとした。

これは、令和5年産主食用米の生産量の見通しと同水準の生産量として設定され、令和6年から7年にかけての需要量671万トンに対して2万トン下回る見通しとなっている。

また、令和6年6月の民間在庫の推計と合計すると、848万トンの供給が可能となる。

	生産量の見通し (6年産) ①	今年の生産実績 (5年産) ②	今年の生産実績との差 ①-②
生産量	669万トン	662万トン	+7万トン

(2) 広島県の令和6年産主食用米の「生産の目安」

①県域での「生産の目安」は、国が示す「生産量の見通し」を参考とした上で、県内の実需者からの聞取りによる「県産米の需要見通し」を勘案しながら設定している。

②令和6年産の目安は、令和5年産の目安と同水準の111,800トンとし、主食用米の県内需要を満たすことを目標とする。

③具体的な判断材料として、以下の理由が挙げられる。

- ・国において、令和5年産の見通しと同水準の生産量を、令和6年産の見通しに設定していること。
- ・県内の実需者によると、令和4年産の在庫解消が進むなど需要回復が見込まれること。
- ・また、令和5年産の主食用米作付面積が前年から600ha減少する中で、令和6年産の県産米の仕入量について、令和5年産の生産実績以上に確保したい意向があったこと。

	生産の目安 (6年産) ①	今年の生産実績 (5年産) ②	今年の生産実績との差 ①-②
生産量	111,800トン	109,700トン	+2,100トン
面積換算値	21,174ha	20,500ha	+674ha

(3) 今後の対応

主食用米の消費が回復傾向にあるものの、作付面積の減少により県民への県産米の供給量の維持が懸念されることから、地域ごとの生産実態を分析しつつ、需要に応じた生産体制が構築できるよう検討していく。